



本は心の栄養です



6月に入ります。これから、梅雨の時期になり、雨が多くなります。子どもたちには、校舎内で静かに過ごすことを学んでほしいと思います。そして、ぜひ、この機会に図書館に足を運び、本をたくさん読んでほしいものです。

そこで、3年前から、本校の図書館整備でお世話になっているリブネットの北山美知さんに、本との出会いや子どもたちへの思いについて、お話を聞かせていただきました。

Q：このお仕事は、どれくらいされているのですか？

A：図書館ボランティアの時から数えると19年になります。リブネットに入ってから10年です。一番下の子が幼稚園になって、自分の時間ができはじめた時、何かできないかな、本の近くにいたいなと思ってはじめました。一番初めは豊浜中学校からスタートしたのですが、すごく楽しかったんです。子どもたちが図書館によく来てくれました。子どもたちに「こんな本あるよ！」と紹介できるのも楽しかったですね。



Q：北山さん自身が、小さいころから本に接していたのですか？

A：私が小さい頃から、母が読み聞かせをずっとしてくれていました。母も本が好きで、本屋さんもよく行って、その時に本をよく買ってもらっていました。私は、小学校は宮山小学校だったんですが、2年生までは図書室はなかったんです。2年生になって図書室ができて、うれしかったですね。たくさん本を借りました。

Q：中学校や高校の頃は、どうですか？

A：中学校や高校の頃は、図書室とは少し離れていたと思います。でも、友達との本の貸し借りはしていましたね。家の中でも本をよく読みました。大学生になって、大学の図書館の大きさにびっくりしました。そして、大学で図書館司書の資格をとりたと思って、資格をとりました。それが今の役に立っていますね。



Q：司書の資格をとられてからは、どのような道に進まれたのですか？

A：一般の企業に数年勤めてから、結婚をしました。司書とは関係のないことをしていたのですが、いつも私の横には本があった気がします。そして、子育ても一段落した時、何かしたいと思って、この仕事を選びました。

Q：日頃、東大淀小の子どもたちの様子を見てもらって、どんなことを感じますか？

A：子どもたちはみんな元気で、外で遊ぶのはすごくいいことだと思います。でも、雨の日とかは、図書室にも足を運んでもらいたいなと思います。そのために、どんなことができるのか、私自身がよく考えていきたいなと思います。それと、今の6年生の子は、1年生を図書室に連れてきてくれることもよくあるんですよ。うれしいですね。

Q：子どもたちが本を借りる数はどうですか？

A：もっと借りてもらおうとうれしいですね。今は、スマートフォンなどで、おもしろい動画などがたくさんあると思いますが、受け身なんですよね。でも、本を読むことは能動的なことなのです。本を読もうと思って、自分で読み進めるわけですから。もし子どもたちが自分で読み進めるのが難しかったら、読んであげたいなとも思いますね。

Q：北山さんが「本っていいよね。」と思うのは、どんなところですか？

A：やっぱり、母からの読み聞かせのことを思い出します。母に読んでもらったことを思い出すと、幸せだったなと思うんですよ。だから、自分の子どもにもしてあげてきました。今の東大淀の子どもたちにも読んであげたいんですよね。

Q：一人で読み進める段階での喜びはどうですか？

A：本を読んでいる、その光景を頭の中で想像する。それは自分だけのオリジナルの想像じゃないですか。それは、一人ひとりが違って、それが楽しいって思うんですよ。それは、本じゃないとできないことだと思うんですよ。

Q：最後に子どもたちにメッセージをお願いします。

A：私は、毎週火曜日に図書室にいます。ぜひ、図書室に足を運んでください。本も読んであげますよ。

北山さんのお話を聞いて、小さい頃からの習慣が、今の北山さんの本への思いにつながっていると感じました。そして、そのきっかけになったのが、お家の方からの読み聞かせだったのだと思います。小さい頃から、本に親しむ環境があったことで、本を自分の人生の栄養に変えた北山さん。東大淀小の子どもたちにも、そんな環境を作ることができればいいなと感じました。